令和３年度　学力向上を図るための全体計画

中 26　大泉中学校

○学校教育法 30 条の２等の関係法規
○東京都の教育目標
○練馬区の教育目標

大泉中学校　教育目標

健康 ～ 心豊かで健康をめざす人
誠実 ～ 自分も他人も大切にする人
努力 ～ 進んで学習に励む人

○学校、地域の実態
○地域の期待や願い
○保護者の期待や願い

大泉中学校　学校経営方針

人は学ぶ　～ 学びの中心は授業である
人は変わる ～ 達成感のある行事
人は輝く　～ 委員会・部活動の充実

①２分前着席、朝読書等による
基本的な生活習慣・学習習慣の形成
②夏季学習教室、学習コンテストの実施等による
基礎的・基本的な内容の定着
③「わかる喜び」「できる喜び」を実感できる学習活動の推進
④主体的・対話的で深い学びを導くアクティブ・ラーニングの実施やＩＣＴ機器の活用を通した授業改善の実施
⑤ティーム・ティーチングによる個に応じた指導の充実
⑥９年間の学びの連続性を生かした小中連携の推進

「各教科」指導の重点

①年間指導計画および評価計画に基づき、適正な評価・評定の実施を行うとともに、生徒・保護者との共有を図る。
②主体的・対話的で深い学びを通して、思考・判断・表現する力を向上させるアクティブ・ラーニング型授業を最大限推進し、実行する。
③ＩＣＴ機器の活用を通して、教材提示、生徒の意見などの共有を工夫し、「わかる授業」を展開する。
④年２回の校内研究授業や教科部会等を通して、大泉中授業スタンダードを活用した授業づくりと実践を行い、授業検討の機会をつくり改善を図る。

「総合的な学習の時間」指導の重点

①キャリア教育の中心として位置付け、生徒個人のキャリア・パスポートを活用した取り組みの充実を図る。
②職業に関する学習、上級学校訪問などを通して進路選択ができる力の育成を図る。
③課題発掘や問題解決力、学び方やものの考え方、プレゼンテーション力を身に付けさせる学習活動の充実を図る。

「進路指導」指導の重点

① 生徒が自己理解を深め、生き方を考え、適切な進路選択ができる力を身に付けられるよう、資料の収集・整備を行い、ガイダンス機能を充実させる。
②ＰＴＡや卒業生、地元企業を中心とした地域の教育力と連携し、望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。
③上級学校訪問等を通して、自分自身で進路選択するための情報収集およびその情報を活用する力を養う。

大泉中学校における「確かな学力」

自立した学習者をめざす資質・能力の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

知識・技能の定着
①繰り返しによる基礎・基本の定着学習の推進
②ICT 活用の推進
③学び合いによる学習活動の推進

学習意欲の向上
①充実感、達成感のある学習活動
②ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ授業の推進
③授業評価、質問紙調査の活用

思考力・判断力・表現力の育成
①生徒の深い思考を促す活動
②必要な情報を収集、選択を迅速、正確に行う活動
③発表活動の推進

大泉中授業スタンダード

～ICT を活用したユニバーサルデザイン授業の展開をめざして～

①導入「課題設定」～課題やゴールを可視化する～

・学習内容の意義を教師と生徒が共有し、課題を明確にする。

②展開「学びの姿」～授業の展開を示す～

・一人一人の学びの姿をみとる。
・他者や先哲との学び合いの姿をみとる。
・教材提示と設問の工夫から生徒の考えや意見をみとる。

③終末「振り返り」～振り返り活動の明確化～

・自分の成長や変容、友達の良さや集団で学ぶ良さに気付かせる。
・充実感、達成感などの学びの手応えをつかませる。
・学びの連続性をもたせ、PDCA ｻｲｸﾙを学習習慣にさせる。

「道徳教育」指導の重点

① 年間指導計画に基づいた年 35 時間以上の道徳教育の実践を堅持する。
②年間指導計画作成段階から、行事との内容の関連付け、ローテーション授業の内容および評価の検討を行う。その上で、生徒の実態を捉えた本時の内容と方法の検討を行い、効果的な道徳の授業を展開する。
③東京都教育委員会、練馬区教育委員会と道徳授業地区公開講座を共催し、家庭や地域との連携を図る。

「特別活動」指導の重点

①望ましい集団生活の形成を図るよう学級活動を計画し実施する。
②集団や社会の一員としての自覚をもたせるため、日々の美化活動や職場体験活動等に取り組ませる。
③体育的行事や文化的行事を３年生中心の実行委員会方式で運営し、自治的な活動を促し、よりよい学校生活を築こうとする態度を育むとともに、心豊かな人間関係を築こうとする実践的な態度を育てる。

「生活指導」指導の重点

①基本的生活習慣の定着、規範意識の向上、自主自律の精神の育成を通した集団生活の向上に努め、安全で落ち着いた学習環境づくりを目指す。
②挨拶の励行等、豊かな人間関係の構築に努め、教え合い、学び合う学習環境の活性化、並びに学習に意欲的かつ真摯に取り組む生徒の育成を目指す。
③特別な支援を要する生徒に対して、個別の指導計画を基に一貫した指導を行うとともに通級指導教室との連携を踏まえた合理的配慮を実践する。また、不登校およびその傾向にある生徒に対する個別の学習指導等による登校復帰への支援、並びにキャリア教育の充実を図る。

大泉中学校授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法	教育課程の編成	校内研究や研修	評価活動	家庭や地域との連携	小中一貫教育
○授業改善のために、定期考査の結果や生徒の授業評価を分析し、各教科・学年で指導内容と方法の見直しを通した実践の充実を図る。 ○教育 ICT 機器配備モデル校として培ってきたノウハウをもとに、ICT を積極的に活用し、生徒が参加したい、学び合いたいという「できる喜び」のある授業を推進、実施する。 ○ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの充実を意識し、思考・判断・表現をする力の向上を促す授業展開を工夫する。 ○習熟度別少人数授業、ティーム・ティーチングの実施（数学）等、細やかな指導を図る。	○週単位で時間割を作成し、授業時数・進度の適切な管理を行う。 ○教科学習の充実を図るとともに、生徒会活動や学校行事を通したバランスのとれた教育活動を行う。 ○放課後や夏季休業期間等を活用して学習教室を行い、基礎学力の向上を図る。 ○図書ボランティアおよび学校図書館支援員との連携を図り、図書室を有効に活用して、読書活動を充実する。	○全教職員が年間2回以上、ＩＣＴ活用による授業改善を目的とした校内研究授業を行う。 ○校内研修の重点４項目を定め、計画的に実施する。 ・ＩＣＴ機器の活用 ・特別の教科 道徳 ・特別支援教育 ・オリンピック・パラリンピック教育 ○練馬区主催の研修等で得られた授業改善に関わる情報を共有していく。	○指導と評価の一体化を図るため、各教科で作成した評価規準・評価計画に基づいた評価を実施する。 ○保護者会等で、教育課程の説明とともに、新学習指導要領完全実施、評価規準や評価方法を説明し、保護者の理解を深める努力を行う。 ○生徒授業評価を行い、授業内容や方法について見直し、改善に生かす。	○学校公開、道徳授業地区公開講座を実施して開かれた学校づくりを推進していく。 ○学校だより、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの内容を工夫し、情報共有の機能を充実させる。 ○地域で活躍する方、活躍してきた方と連携を図り、可能な範囲内で講演会や特別授業等を企画・実施し、学校全体の活性化を図る。	○校区別協議会において、具体的な授業をもとにした協議会を行い、各校種での授業内容や方法に関する相互理解を深める。 ○小中連携事業を推進し、課題改善カリキュラムの作成・実践を通した小学校との学びの交流および連続性を図る。

授業改善策の検証方法

日々の授業観察および提出課題・定期考査等の結果、生徒授業評価等を基に、教科部会、校内研修で改善策を検討し、実践を通して検証する。

様式2

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	国語

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス集計による分析
第1学年	【定期考査】 全体的に問題文やその条件の読み込みが浅いため、ケアレスミスが多い。記述式問題には意欲的に取り組もうとする生徒が多い。 【提出物】 家庭学習として授業の予習・復習に取り組んでいる生徒が多く、意欲的に取り組んでいる様子がある。	【知識・技能】 ・質問を通して言葉のきまりや漢字、古典の知識を定着させようと努めていた。文章中の語句の意味調べは課題として出したプリント以外にも、自主的に取り組む生徒が多い。一方で、その内容の定着にはいまだ課題が見られる。 【思考・判断・表現】 ・描写から登場人物の心情を読み取ったり考えたりすることに課題が見られる。 ・説明的文章の構成や筆者の工夫を読み取れる生徒は増えつつある。文章の要点を適切な把握したり、抽象的な表現を正確に理解したりするのに苦労する生徒が多い。 【主体的に学びに向かう態度】 ・多くの生徒が積極的に授業に取り組む姿勢がみられた。中には自主的に発展的な学習に取り組み学語力の向上に努める生徒もいた。家庭学習の習慣の定着が課題である。	・積極的に授業を受けていたものの、漢字や文法事項を中心とした言語事項の定着に課題がみられた。家庭学習用の課題を増やし、学習習慣の確立をはかり、上記の言語事項の習得を目指す。 ・感染予防の観点から調べ学習を思うようにできなかったため、情報の集め方や集めた情報の扱い方などについて今後取り組んでいく必要がある。 ・感染予防の影響で、意見交流や議論等の充分な話し合い活動ができなかった。タブレット端末の掲示板機能、プレゼンテーション機能を活用するなどをし、話し合い活動に代える必要がある。
第2学年	【定期考査】 記述式問題には意欲的に取り組もうとする生徒が多く、問題に対する文末の答え方にまで丁寧に取り組める生徒が増えた。作文においては、時間内に構成をまとめて書く力がついてきている。 【授業に関する質問紙調査】 「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」の項目では「あてはまる」と答えた生徒が５割程度であった。家庭学習の習慣化が課題である。	【知識・技能】 文章中の語句の意味調べは課題以外にも、自主的に取り組む生徒が多い。一方で、その定着には課題が見られる。 【思考・判断・表現】 ・話すこと・聞くことにおいて、多くの生徒が相手や目的に応じて工夫を凝らして準備していた。しかし、全体の前での発表の仕方には改善の余地がある。 ・書くことにおいて、手紙やメールの書き方を実践し、読み手の立場に立って文章構成ができていた。 ・読むことにおいて、描写から登場人物の心情を読み取ったり考えたりすること、説明的文章の構成や筆者の工夫を読み取れる生徒は増えつつある。ただ、読み取ったことをもとに自分の考えをまとめることに課題が見られる。 【主体的に学びに向かう態度】 多くの生徒が試行錯誤しながら、学習に取り組むことができている。	・「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」の項目では「あてはまる」と回答した生徒が５割程度にとどまったため、生徒が意欲的に取り組むことができる課題設定や家庭学習を定着させる取り組みを行う必要がある。 ・「授業中、自分で考え取り組む場面がある」の項目で９割以上の生徒が「あてはまる」と回答している一方で、「生徒同士で話し合う、発表し合う機会がある」と答えた生徒は８割程度にとどまった。自ら考えて取り組む場面を活用し、他者との話し合い活動等を重ねながら、広い視野を身に付ける取り組みを行っていく必要がある。
第3学年	【定期考査】 文章を読み解くスピードが速くなり、大半の生徒が時間内で解けるようになってきた。課題作文や記述問題を時間にまとめる力が付いてきた。その一方で、読解の正確さや文法事項の定着には、全体的に課題も見られる。 【授業に関する質問紙調査】 「授業に一生懸命取り組んでいる」「自分で考え取り組む機会がある」「生徒同士で意見や考えを伝え合う機会がある」の項目では、9 割を超える生徒が「あてはまる」と回答していた。	【知識・技能】 語彙、漢字の書き取りは、生徒によって定着に差が見られる。主語述語の関係のねじれ、接続詞など文法は、全体的に定着に課題が見られ、継続的な指導が必要である。 【思考・判断・表現】 詩・俳句等の表現活動は、柔軟な発想力をもち、得意としている様子がある。文章の読解については、文章から読み取ったことを書き抜くことができる生徒が多い。一方、読解の正確さ、論理的な文章構成や説明の仕方には課題も見られる。 【主体的に学びに向かう態度】 大多数の生徒が、試行錯誤しながら、作品や作文、スピーチなど学習に積極的に取り組むことができている。	・言語事項など基礎・基本の反復を行い、苦手意識の克服、知識・技能の確かな定着をするような取り組みを行っていく必要がある。 ・「自分で考え取り組む機会がある」「生徒同士で意見や考えを伝え合う機会がある」の項目で「当てはまる」と回答した生徒が 9 割以上いたことを生かし、論理的な記述や説明を意図的に行えるような取り組みにしていく必要がある。 ・読解のスピードは保ちつつ、より正確に問われている内容や条件を捉える取り組みをする必要がある。

様式3

令和3年度　全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	国語

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画	新学習指導要領**対応**
第1学年	・言語事項に関して、家庭学習は課しているものの、その定着度合いの確認までは図れていない。 ・説明的文章の読み取りにおいて、構造について学習する際に指導者側からの説明に終始してしまいがちである。	・家庭学習だけでなく、授業内で小テストや反復練習を実施し、定着を図る。 ・ペアワークやグループワークなどの時間を授業内に組み込み、読み取った内容や文章構造について根拠をもって自分の考えを述べ合い、多角的な視点で文章構成を捉えられるようにする。	・定期的に小テストを実施し、漢字や文法事項などにおいて既習事項の定着を図る。 ・説明的文章を読み取るための補助資料として、どの理解度にでも対応できるようなワークシートに取り組ませる。その進捗状況に応じて、助言やさらなる発展的な課題設定を行う。	・主体的・対話的で深い学びを実現していくために、自分で考えをまとめる時間を確実に確保し、その上でグループワークの中で互いに根拠を明確にした意見を述べ合う。それにより、生徒が自分の考えを伝え合い、広げたり深めたりしていける授業展開にしていく。
第2学年	・知識・技能に関して、家庭学習の課題は課しているものの、その定着度合いの確認までは図れていない。 ・文学的文章の読み取りにおいて、根拠をもとに自分の考えを表現するという指導はできているものの、他者と共有する段階にまでは至っていない。	・家庭学習だけでなく、授業内で小テストや反復練習を実施し、定着を図る。 ・ペアワークやグループワークなどの時間を授業内に設定し、読み取った内容について根拠をもって自分の考えを述べ合い、多角的な視点で文章を捉えられるようにする。ICT 機器を利用して、他者の意見に触れる機会を増やしていく。	・定期的に小テストを実施し、漢字や文法事項などにおいて既習事項の定着を図る。 ・段階的に取り組めるワークシートに取り組ませ、進捗状況に応じた助言を行う。 ・読解が苦手な生徒には他者との交流の中で課題の解決策を見つけるように指導していく。また、生徒に応じて発展的な課題設定を行う。	・主体的・対話的で深い学びを実現していくために、自分の考えをまとめる時間を確保した上で、グループワークで互いに根拠を明確にした意見を述べ合う。さらに、ICT 機器を積極的に活用したり、発問に合った活動を取り入れていくことで、生徒が、自分の考えを整理し、伝え合い、広げたり深めたりしていける授業展開にしていく。
第3学年	・「知識・技能」の観点の中でも、特に文法事項について、その定着までは、授業内で、十分に触れられていない。 ・「思考・判断・表現」の観点では、自分の考えを表現する、他者と共有するということまではできるようになってきた。しかし、その上で他者の意見や既習の知識等を用いて、個人の力で推敲、修正しさらに練り上げるという段階にまでは至っていない。 ・素早く内容を理解する力は付いてきたが、より正確な読解力という点では、課題も見られる。	・「知識・技能」にあたる、基礎・基本事項の確認を丁寧に行う。文法や漢字などは反復練習を取り入れ、言語事項の定着を図る。 ・ペアワークやグループワークなどの時間を設け、他者との対話の中で自分の考えを見出した上で、再度個人の作業に戻し、検討するような時間を設けていく。 ・文章の要約など、読み取った内容の趣旨を素早く掴む取り組みを行う時間を設ける。	・定期的に小テストなどを行い、基礎・基本の定着を図る。 ・グループワーク等対話での活動と並行して、苦手としている生徒への個別の対応を行い、課題の解決策を見出していくように指導していく。また、苦手意識のない生徒には、既習知識に基づく表現の工夫を促すなど生徒に応じて発展的な課題設定を行う。	・主体的・対話的で深い学びを実現していくために、個人で考える場面やグループワークで考える場面など発問に合った活動を行ったり、ICT機器を積極的に活用していったりすることで、より確実に知識や技能を定着させ、生徒が、自分の考えを整理、表現し、伝え合い、その上でさらに広げたり深めたりしていける授業展開にしていく。

様式2

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	社会科

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス集計による分析
第1学年	①地理的分野の内容 ・内容理解を進めるための専門的な用語を覚えようとする意欲はあり、結果にも表れている。 ・データブックを活用して必要な情報を取り出す作業はほぼ全員が習得している。地図帳から必要な情報を取り出すことについては、十分なレベルに達しておらず、使用場面を増やすなどの工夫が必要となる。 ②歴史的分野の指導 ・内容理解を進めるための専門的な用語を覚えようとする意欲はあり、結果にも表れている。 ・推移や変化といった見方・考え方を働かせて、資料を読み取ることができるようになっている。時代の特徴をおおつかみして表現する力が十分なレベルに達していない。作成物を相互評価するなど、表現されたものを多面的・多角的に捉える活動を増やす工夫を行う。	①知識・技能 おおよそ定着していると見られる生徒の割合が80％程度であった。特に、技能面で資料の読み取りには前向きな生徒が多く、今後も指導を継続していく。 ②思考・判断・表現 おおよそ定着していると見られる生徒の割合が60％程度にとどまった。コロナ禍によるグループ活動の制限があり、他の生徒との直接的な意見のやりとりがほぼ行えなかったことが影響していると考えられる。一方で、タブレットを活用し、ジャムボードや共同編集作業を入れて、意見を交換する場面を確保することはできた。 ③主体的に学習に取り組む態度 ワークシート等を活用し、単元ごとに学んだことを整理して明示化することは90％程度の生徒ができている。	①タブレット等を活用した意見交換の継続 コロナ禍の対応が継続されることを前提とした学習活動の指導方法として、タブレット（ジャムボードや共同編集作業など）を有効活用し、今後も意見交換をしあうような学習環境の確保に努めていく。 ②思考・判断・表現の育成 他2観点に比べ、思考・判断・表現に関する定着が弱いことと、今後のコロナ対応の継続を踏まえた学習活動の再設計が必要になる。上記①のような方策とともに、思考・判断・表現の指導計画の見直しや具体的な評価のポイントを生徒と共有する仕方を工夫するなど、生徒の学習定着度に応じて、こまかな修正をかけながら指導にあたっていく。
第2学年	①地理的分野の指導 　昨年度から継続的に地図帳を扱うことで、地図資料の読み取りはおおむね習得している。その反面、統計資料などから必要な情報を取り出すことに関してはまだ習得状況に差がある。改善のため推移や変化の見方や考え方に注視して指導を行っていく。 ②歴史的分野の指導 　地理よりも歴史を好む生徒が多く、意欲的に取り組んでいる。定期考査では知識を問う問題に比べ、思考・判断・表現に関する定着度が低いため、背景、原因、結果、影響などからのちの時代への変化や影響などの歴	①知識・技能 　意欲的に資料の読み取りに挑戦する生徒が多い反面、おおよそ定着している生徒の割合は６４％と少し課題があった。特に地理的分野では統計資料ごとの視点に注意するように指導を行っていく。 ②思考・判断・表現 　定着率が５６％と課題が見られた。８９％の生徒が意見を交換する場があったに対して肯定的な意見で、タブレットを活用した意見の交換の場を設けることができた。一方でコロナ禍により直接的な意見のやりとりに制限があったことが、定着率に影響していると考えられる。	①知識・技能 　授業・復習用ワーク・小テストの実施と同じ単元に触れる機会を複数回作ることで知識の定着につなげる。また、資料の読み取りでは、読み取る際のポイントを提示しながら指導にあたっていく。 ②思考・判断・表現 　２学期もコロナ対応をしながらタブレットで意見を交換する場を作り、考えを深められる活動を継続していく。また、直接的な意見のやりとりが制限されるなか、生徒の学習定着度に応じて補助発問を増やして指導にあたっていく。

	史的な見方･考え方が身につくよう指導していく。	③主体的に学習に取り組む態度 １学期の達成度は７２％と比較的高い数値であった。	
第３学年	①新学習指導要領の内容 　単元を見通した問いを設定し、単元の学習の中に本時の授業を位置付けるという学習形態を継続していく。学習前に単元の見通しをもち、学習後に単元の振り返りを行うことが定着してきた。 ②歴史的分野の指導 ・内容を理解するための語句を覚えようとする意欲はあるが、それらを活用して多面的・多角的に考えることを苦手とする生徒が多い。歴史的分野では大きな流れを大観し、変化や影響などの歴史的な見方・考え方が身につくよう指導していく。 ・定期考査より、富国強兵に向けた諸改革に内容に関して理解している生徒が多かった。しかし、殖産興業に関する資料を読み取る問題ができない生徒が多かった。 ③公民的分野の指導 ・カリキュラム配列上、現代社会の諸課題が生じている背景の理解に差があるため、適宜年表や現代史の学習を取り入れながら理解を促す必要がある。 ・話し合い活動を前提とした社会的な見方・考え方の習得や活用場面といった活動がコロナ禍で制限されているため、自分の考えを素早くまとめ、わかりやすく伝える資質を高める必要がある。破損時の代替措置として、タブレットなどを用いて生徒同士が意見を伝え、考察する時間を確保する必要がある。	①知識・技能 　１学期の達成度は６２％。家庭学習との関連が強い観点であり、生徒アンケートでは家庭学習を意欲的に行っている生徒は６６％にとどまっている。 ②思考・判断・表現 　１学期の達成度は５８％。生徒同士で意見や考えを伝えあうこととの関連が強い観点であり、生徒アンケートでは８８％の生徒が授業中にこの機会があると答えている。 ３観点の中では、最も低い数値が出た観点であり、タブレットを活用したグループワーク調べ学習を積極的に授業に取り入れ、個別に指導していく機会を増やしていく。 ③主体的に学習に取り組む態度 　１学期の達成度は７０％。生徒アンケートでは８８％の生徒が授業に一生懸命取り組んでいると答えていた。	新学習指導要領に対応し、単元を見通した問いを核とした学習構成とそれに基づいた授業実践および学習指導を昨年度から引き続き行う。 ①知識・技能の育成 　問題集や授業で使用しているワークシート等を活用し、家庭学習との連携指導を強化していく。また、技能に関して授業内で活動場面を増やし、重点的に指導にあたって定着につなげる。 ②思考・判断・表現の育成 　グループワークや調べ学習を実施する際に、身に付けた資料活用の技能を活用できる授業展開の工夫に努める。また、レポート作成の指導を行い、社会的事象に対する見方・考え方と理解した内容を適切に伝える表現力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度の育成 　身近な生活等から学習課題を考え主体的に設定する活動を積極的に取り入れ、学習意欲の向上に努める。また、振り返りシートを活用した指導機会を増やし、粘り強く取り組もうとする態度を養う。

様式3

令和3年度　全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	社会科

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的･発展的な学習指導計画	新学習指導要領**対応**
第1学年	①話し合い場面を補完するような教育活動の確保 ②単元を貫く問いの設定・振り返りにあたる授業時間の確保	①学習タブレットの活用ワークシートへのコメントや classroom の限定コメントなどを活用し、生徒へのフィードバックを充実させるように工夫する。 ②生徒への学習のフィードバックの質を上げる。 ③１時間の中での授業構成を再考し、発問の精選によって振り返りや単元を貫く問いの設定時間を確保していく。	①学習活動のレベルをわかりやすく明示する。苦手な生徒と得意な生徒、処理の早い生徒では同じ作業でも作業速度と正確さに差が生じるため、同じ活動でもレベルわけを行い、同じ時間内でできる限り様々な取り組みが行えるように工夫する。 ②classroom の質問機能などを利用し、生徒一人一人の解答を蓄積し単元ごとに振り返りの機会を設けるなど、生徒自身の学習調整力が向上するような取り組みを充実させる。	①単元で授業を構成し評価することについては、一定の共有を行うことができている。 ②学習内容のまとまりごとの評価を細やかに行い、生徒自身にもどのような力を身に付けることができるのかを共有していく。
第2学年	①単元を貫く問いの設定・振り返りにあたる授業時間の確保 ②学習内容をまとめたり表現する活動を中心としたアウトプット場面を想定した授業展開により思考力・判断力・表現力を育てる発問の設定	①１時間の中での授業構成を再考し、発問の精選によって振り返りや単元を貫く問いの設定時間を確保していく。 ②単元を通してどのような内容を学習するのかを明確に提示する。また、個人で考えた意見をもとに、グループやペアで意見を共有できる時間を設定していく。	①補充的な学習 生徒の学びに対する形成的評価を単元内で行い、生徒自身の学習調整力が向上するような取り組みを行う。 ②発展的な学習 生徒の学びに対する形成的評価を単元内で行い、生徒の視点とは別の視点を提示し、多角的に追求できるようにする。	①単元を貫く問いの設定や思考・判断・表現の観点を学習の軸においた指導を行う。 ②様々な形式でのアウトプットを前提とした学習を構成し、まとめたり表現したりする活動を取り入れた学習となるように意識を高める。
第3学年	①単元を貫く問いの設定や学習後に振り返りを行う授業時間の確保 ②学習内容をまとめ、表現する活動を想定した授業の実施	①単元ごとに教員が進める学習内容と生徒主体で設定し、グループによる調べ学習を中心とする活動をカリキュラム段階から適切に配置するよう努め、授業時間の確保を行う。 ②学習用タブレットと振り返りシートの活用 対面での話し合いに制限がかかる状況を想定し、タブレットを活用して、生徒が意見を伝えあい、自分の意見を表現できる機会を設定する。また、クラスルームを活用して、生徒へのフィードバックを行っていく。	①補充的な学習 振り返りシートを活用して、生徒の学びに対する形成的評価を単元内で行う。 ②発展的な学習 授業内で提示する資料の数を増やし、資料から考え判断する機会を増やす。その際、より多面的・多角的な判断が可能となるようフォローしていく。	①単元を貫く問いを設定し、社会的な見方・考え方を働かせ、思考・判断・表現の学習を軸に学習を進めていく。 ②授業ごとに振り返りを行い、単元を貫く問いに対する答えを調整させ、粘り強く課題に取り組もうとする姿勢を育む。

様式2

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	数学

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス集計による分析
第1学年	・定期考査の結果を見ると、「正の数、負の数」の基本的な計算の理解はよくできているが、「文字と式」の範囲では、文字式の表し方については理解できているが、必ず文字式の表し方で表さなければいけないということを理解できていない生徒が多い。等式、不等式で表す部分の理解はまだ低いことから文章を読み取る力は弱い。	・評価の結果から 「知識・技能」 平均 72.0% 「思考・判断・表現」平均 68.2% 「主体的に学ぶ態度」平均 54.8% ・「主体的に学ぶ態度」については「学びに向かうプリント」の重要性が理解されていなかったので、もっと周知させなければいけない。 ・「思考・判断・表現」の表現の部分で、文章を読み取り、等式、不等式で表すことが苦手だと思われる。文字式の表し方で表さない生徒が多い。	・各章の振り返りシートより、内容についてわかったという肯定的な回答は 1、2 章でそれぞれ 91.1%、88.9%であった。引き続き基礎基本の定着率を高めるために、小テストを行い既習事項の振り返りをしながら、次の章の学習内容につなげていきたい。
第2学年	・定期考査の結果から 文字の計算や連立方程式の計算においては、計算の方法を理解して、正確に答えを導ける生徒が多い。文字を利用して、数を一般的な形で表現し数の性質を考察することや、またその内容を式や言葉で表現することを苦手とする生徒が多い。	・定期考査の結果から 「知識・技能」平均66.4% 「思考・判断・表現」平均45.6% ・評価の結果から、 「主体的に学ぶ態度」平均67. 7 振り返りシートでは、分からなかった部分を確認して、次の学習に活かそうとしたり、学習した内容を身の回りのどのようなことに活かせるか考えて記述している生徒が多かった。	・小テストを適宜行い、既習事項の振り返りをしながら、基礎基本の定着率を高めていきたい。 ・授業アンケートでは「新しい知識が身につくなど楽しいと感じる」が97%の肯定的な意見があるので、ICT 機器や黒板での発表活動などを通して、技能の定着と理解を一層図っていきたい。 ・振り返りシートを使って授業内容を振り返り、問題解決を行う学習が取り組めるような授業を展開していく。
第3学年	・式の展開や因数分解などの「思考・判断・表現」の力を図るため、「振り返りシート」を活用して、単元のまとめ終了時に A、B の基準を設けた問題の作成に取り組んでいる。その評価の達成率は A 基準　34% B 基準　41% C 基準　15%となった。 （A・B・C ともに全生徒数に対しての割合） ・計算問題に限っては途中式も含めて丁寧に解くように指示を出し「知識・技能」の力の向上を目的として、3つの難易度に分けた「学びに向かうプリント」をタブレットを活用して、家庭学習で取り組ませている。その各プリントの達成率は 松プリント　64% 竹プリント　74% 梅プリント　83%となった。 （各プリントにおける全生徒数に対する提出合格率）	・1学期の評価より習熟度クラスによる達成率は以下の通り、 「知識・技能」 発 展　92.9%・標 準　72.6%・基 礎　32.6% 「思考・判断・表現」 発 展　79.2%・標 準　50.7%・基 礎　21.9% 「主体的に学習に取り組む態度」 発 展　94.3%・標 準　80.4%・基 礎　54.4% ・基礎クラスにおける計算問題の振り返りを授業の始めに毎回行っていたが、基礎的な内容だけではなく標準的な内容に関しても行っていく必要がある。 ・「主体的に学習に取り組む態度」に関しては「学びに向かうプリント」の提出率を上げることが課題である。	・観点「主体的に学習に取り組む態度」での基礎クラスの達成率が 54.4%は「学びに向かうプリント」の松・竹のプリントの提出率に関係している、各プリントで、竹までのプリントの提出率、理解度を上げていくことによって観点の達成率の向上、さらには「知識・技能」の観点の達成率の向上が期待される。 ・振り返りシートの各基準の達成率に関しては授業内での思考判断への取り組みに関係する内容の出題となっているが、授業内での取り組みを丁寧に理解させることによって振り返りシートの A・B 各基準の達成率の向上、さらには提出時の解答ミスなどが防がれ、観点「思考・判断・表現」の向上が期待される。

様式3

令和3年度　全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	数学

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画	新学習指導要領対応
第1学年	・学力向上支援講師と他学年の数学科の先生との TT 形式の授業を行い、個に応じた指導で学力向上を図っている。 ・授業アンケートから家庭学習の取り組みが少ないという回答が多かったのでもう少し学びに向かうプリントへの取り組みを啓発していきたい。 ・話し合い活動に関しては、緊急事態宣言の関係であまり行えなかった。タブレットを使った授業としてスライドでの授業を行ったが、自分のスピードで学習できるという声がある一方で先生の話を聞いた方が良いという声も多く聞かれる。タブレットの使い方を考えていかなければいけない。	・デジタル教科書を利用して ICT の活用を通して意欲的に課題に取り組めるように工夫する。 ・ジャムボードなどを利用して自分の考えを表現させる。他者の考えも共有できるようにする。 ・緊急事態宣言が解除されれば、話し合い活動を取り入れたり、数学を得意な生徒が先生役になったりして教える活動を取り入れていきたい。	・学びに向かうプリントの「梅」で基礎基本の定着、「竹」で標準的な問題の演習、「松」で発展的な課題に取り組めるように準備する。 ・夏季補充教室や、定期考査前の質問教室などの授業外でも質問できる機会を増やし、生徒が分からないまま進むことがないようにする。	・1章を通して、正の数と負の数がどのようなものかを理解し、正の数と負の数を用いた四則計算をすることができるようになった。 ・2章を通して、文字式の表し方を学び、文字を含む項や式の四則計算をすることができるようになった。 ・学びに向かうプリントに取り組むことで、主体的に学習習慣を身に付けることができた。
第2学年	・少人数習熟度別授業展開を行い、基礎クラス:標準クラス:発展クラスを2:3:3の人数比で授業を行っている。基礎クラスは、生徒の様子を細かく見ながら授業を進めることが出来ているが、進度はかなり遅くなる。 ・6クラスを5名の教員で指導しているため、進捗状況や教材の打ち合わせに課題がある。	・少人数習熟度別授業を生かした内容の精査をして問題に取り組ませている。 ・教科部会を出来る範囲で持ち、進捗状況や教材の共有の確認をする。 ・単元終了の目安を確認し、進捗状況を把握しやすいようにしている。	・定期的に計算小テストを行い、基礎基本の定着を図る。 ・夏季補充教室や毎週の質問教室など、授業以外でも質問できる機会を増やし、生徒がわからないまま進むことがないようにする。さらに質問教室では発展的な内容も取り扱う。 ・定期考査前に、復習問題や実践問題を授業で取り上げる。	・振り返りシートを活用し、毎時間何がわかったかを明確にした。さらに単元終了後に学習内容の定着度合いや授業への取り組み状況を文章表現できるようにした。また日常生活の中で、その単元の学習内容がどのように利用できるか、されているかについて考えさせた。
第3学年	・少人数習熟度別授業展開を行い、標準クラス、発展クラス共に同じ人数比で授業を行っている。基礎クラスは発展標準クラスより少ない人数(15名程度)で基礎学力の向上を目指しているが、基礎クラス内でも習熟度に偏りがある。同じく発展クラス内でも習熟度に偏りがある。 ・7クラスを4名の教員で指導しているため、進捗状況や課題の打ち合わせを行うようにしているが、少なからず、差が出る部分もある。 ・「振り返りシート」など既習事項を活用した考察ができない生徒が多い。 ・「学びに向かうプリント」を活用した家庭学習の充実が課題である。	・7クラスでの習熟度別授業展開のため、2クラス3展開と3クラス4展開にして、発展クラスの偏りを改善している。発展クラスの偏りを少なくするために教科書の内容を中心に発展内容に取り組んでいる。 ・少人数習熟度別授業を生かし、内容を精査して問題に取り組ませている。定期考査に向けては各クラス、試験に向けて共通の章末問題を解説するようにしている。 ・週1回の進捗状況の確認や、教材の共有を徹底する。 ・UD や ICT を活用して、導入の工夫や視覚的に分かりやすく解説、説明するようにする。	・学力コンテストやタブレットを活用した「学びに向かうプリント」の課題によって基礎基本の定着や、家庭学習の定着を図る。 ・夏季学習教室や、定期考査前の質問教室など、授業以外でも質問できる機会を増やし、生徒がわからないまま進むことがないようにする。さらに、発展的内容に関してはタブレットを活用して発展問題の発信をする。 ・単元終了時に振り返りシートを使用して教科書の「思考・判断・表現」に関する問題に取り組ませて、思考力、表現力の向上を図る。	・振り返りシートを活用し、授業の始まりに、本時の目標、何が分かるかを明確にする。さらに授業後に本時で学んだことをまとめることにより知識の定着を図る。 ・振り返りシートでは本単元での学習を日常生活でどのようなことに生かせるかを考えることにより、生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり，技能を習得したりする。 ・「学びに向かうプリント」を活用し、自分の進捗状況に合わせ、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組むことができる。

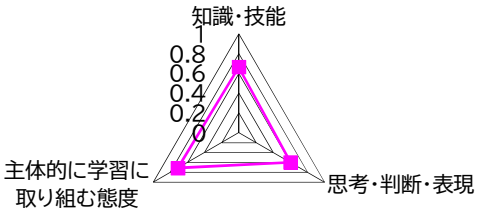
（様式2）

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	理科

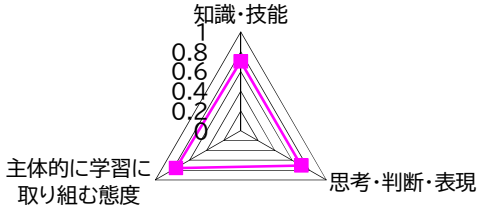
1年	観点別平均達成率
知識・技能	66.3%
思考・判断・表現	60.4%
主体的に学習に取り組む態度	71.3%

理科；第一回定期考査＋授業評価より（生命・地球領域で実施）
知識を活用して考える問題について正答率が高いが、説明的な解答が必要な問いは正答率が低い。“理科的なものの見方考え方”の育成に課題がある。



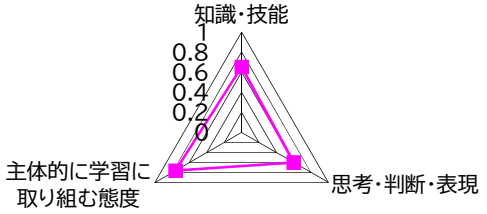
2年	観点別平均達成率
知識・技能	70.1%
思考・判断・表現	70.5%
主体的に学習に取り組む態度	75.9%

理科；第一回定期考査、授業評価より（地学・生物・物理分野）
知識を得ようとする意欲はあり、数値も高い。一方で実験の経験が不足しているため、技能には課題が見られる。また、知識を活用し、活用する問題について正答率が低い。



3年	観点別平均達成率
知識・技能	65.2%
思考・判断・表現	60.1%
主体的に学習に取り組む態度	76.2%

理科；第一回定期考査、課題、授業より（化学・生物・地学分野）
主体的に学習に取り組む姿勢が高く、学習の成果として知識を身に着けることができている。一方で、数学的な計算や目に見えない原子や分子などの理解、科学的思考力を必要とする説明問題に課題を感じる。



（様式3）

指導法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画	新学習指導要領対応
第1学年	主体的に学習に取り組む態度の達成率が71.3%と決して高くない。まずは、そこが一つの課題。また、思考・判断・表現が60. 4%と、事象を理科的に見て考える習慣が十分でないことも課題。	実験・観察を行う際も身近な事象と結びつけながら工夫して行っていく必要がある。また、通常の授業の中でも、常に理科的なものの見方・考え方を育てるよう質問、言葉がけをしていく。	自ら課題を設定して行う実験・観察（夏休みの自由研究）やそれを自分の言葉でわかりやすく発表する発表会等を計画し、生徒一人一人の発表を通して互いの良い点を吸収する機会を設ける。	理科の授業の目的や成果が何なのかを生徒・教員が共通理解し、主体的に学びを進められる言葉がけ、環境づくりを行う。理科を学ぶ楽しみを感じられる授業づくりを工夫する。
第2学年	知識・技能が思考・判断・表現よりも低い達成率になっている要因として、実験や観察の経験不足が考えられる。どの数値も比較的高い値となっており、理科に対する学習意欲が高い生徒が多いのだと考えられる。	実験・観察を可能な範囲で取り入れ、実体験を積むことで、理科の技能を高める機会を作っていく。また、それらが使用されている生活の工夫・事象について積極的に触れ、身近に捉えることで理解を深めていく。	インターネット等を活用した調べ学習やまとめ資料の作成、発表活動を通し、補充的・発展的な内容を意欲的に取り扱わせ、身につけさせていく。	生徒が主体的に課題設定し、計画性をもって取り組むことができる活動を行う。また、自分の身近で学習した事象が起こっていないか、あるいは活用されていないか、という目線を常に持たせることで、学習を生活に応用しようという意欲を高める。
第3学年	主体的に学習に取り組む姿勢は76.2%と比較的高い数値であり、日ごろやテスト前の姿勢によって知識・技能の数値も65.2%と低い数字ではない。一方、習得まで時間がかかる思考・判断・表現は60.1%であり、課題である。	実験・観察だけではなく、座学の授業でも結果や知識の習得でけではなく、なぜそのようになるのかを意識した授業づくりを心掛ける。また課題の計算問題などはある程度演習が必要なので、演習を多く行う。	定期考査前などに補充教室や質問教室を行うことで苦手な分野の克服を目指すとともに、適時レポート課題を行うことで、身近なものと科学とを結びつけ、科学への関心をもたせていきたい。	現象や理論をただ覚えるだけではなく、その現象や理論に対してそれがなぜ起こっているのかを自ら発見できるような授業を行う。また授業中には必ず考える時間や発表する時間を設け、思考・判断・表現を行う力を育むことができる授業を行う。

様式2

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	音楽

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス集計による分析
第1学年	授業では大半の生徒が理解できている。しかし、定期テスト、実技テストで思うような結果が出ない生徒がいた。知識、技能の確実な定着が課題である。	第2観点の思考・判断・表現において改善の余地がある。実技において基礎的な技能を下地とした的確な表現をすること、鑑賞において気づいたこと感じたことを自分で消化してまとめることができることを目標として指導を展開していく。	鑑賞の領域において授業で学習した知識を生かし、自分なりに評価しながらよさを味わって聴く、レポートにまとめる思考、判断力の育成を目標にしていく。
第2学年	授業では大半の生徒が理解できている。しかし、定期テスト、実技テストで思うような結果が出ない生徒がいた。知識、技能の確実な定着が課題である。	第2観点の思考・判断・表現において改善の余地がある。表現においては習得した技能を生かした的確な演奏をすることを目指して指導を行う。 鑑賞では授業で習得した知識を論述することからさらに発展して曲を構成する要素や曲が作られた時代背景などと関連づけて自分なりの意見を述べることができるように指導を行う。	鑑賞の領域において思考、判断力の育成を目標とし、具体的に曲を構成する要素や曲が作られた時代背景などと関連づけて自分なりの意見を述べることができるように指導を行う。
第3学年	音楽用語、歴史などの知識の習得は大半の生徒が理解できている。定期テストの結果からより確実な定着を目指していきたい。 一方で技能、表現においては実技テストで既習のリズムの演奏をうまく表現できない生徒がいた。授業で学習した技能、表現の確実な定着に課題がある。	第2観点の思考・判断・表現においては実技、習得した技能を生かすための表現方法を生徒自身が考えてできるように指導していきたい。 また、鑑賞では学習した知識に基づいて、楽曲を構成する要素、音楽が作られた背景などを踏まえて論理的に批評することができるように指導していきたい。	表現力の育成を目標とし、表現の領域において習得した音楽を形作っている要素を生かした表現をできるように指導を行う。

様式3

令和3年度　全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	音楽

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画	新学習指導要領**対応**
第1学年	社会情勢により、表現の領域、歌唱、器楽（リコーダー）の活動に制限があったため鑑賞の活動が予定よりも多くなった。創作、箏、ギターなどを含めて授業内容の偏りに留意していく。	基礎的な知識、技能の定着を目指し繰り返し指導を行う。歌唱の活動では楽譜に出てきた既習の用語や強弱記号などの確認を行い実際に教師が例を示す、生徒自身が実践することを徹底する。	個々の能力に応じた課題・題材の設定。器楽では基礎的課題、発展的課題など複数の課題を用意し、一人一人が意欲的に題材に取り組み、楽しい、やりたい、挑戦したいと思える指導を心掛ける。	・隣同士、グループごとで鑑賞課題の意見交換、リズム課題の確認を行い生徒同士で学びあい、教えあうことで学習効果を高める。
第2学年	社会情勢により、表現の領域、歌唱、器楽（リコーダー）の活動に制限があったため鑑賞の活動が予定よりも多くなった。創作、箏、ギターなどを含めて授業内容の偏りに留意していく。	・鑑賞の活動では、視聴覚教材を積極的に取り入れるなどし、音楽をより身近に感じることができるように工夫する。 ・楽譜に書かれている記号などの情報を読み取り表現することを習慣づける。 ・柔軟に題材を設定し、様々な音楽を紹介することで、豊かな感性を育てる。	・題材に応じたプリントを用意し知識の定着を図る。授業終了時に回収し、書き漏れがないようにチェックを行う。	・隣同士、グループごとで鑑賞課題の意見交換、リズム課題の確認を行い生徒同士で学びあい、教えあうことで学習効果を高める。
第3学年	社会情勢により、表現の領域、歌唱、器楽（リコーダー）の活動に制限があったため、鑑賞の活動が予定よりも多くなった。創作、箏、ギターなどを含めて授業内容の偏りに留意していく。	・合唱コンクールに向けて、全体のハーモニーや歌詞の内容を考え、主体的に表現をさせる指導をする。 ・様々な音楽にふれる中で、古代から現代までの世界の音楽の歴史などと関連させ、違いや特徴を考えさせる指導をする。	演奏に求められる音程、リズム、強弱など細かい部分をできるだけ多くの生徒が理解できるように、繰り返し個別、少人数で指導を行う。	・隣同士、グループごとで鑑賞課題の意見交換、リズム課題の確認を行い生徒同士で学びあい、教えあうことで学習効果を高める。

様式2

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	美術

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス集計による分析
第1学年	・作品制作に対して意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ・小学校では習わなかった制作方法に初めて取り組むこともあり、これから制作を重ねながらレタリングや形のバランスを整え美しく描く力を身に付けていく必要がある。 ・今後さらに色彩についての学習も進め、力を付けていく。	・知識・技能 まだ基本的な技能を身に付けているところであり、作品制作を重ねて知識・技能を高める必要がある。 ・思考・判断・表現 少しずつ自分で考え発想、表現することが定着し始めている。 ・主体的に学習に取り組む姿勢 ほとんどの生徒が主体的に取り組むことができている。	・作品や授業に取り組む姿勢はできているが、まだ形と色彩などの基本的な知識・技能を身につける必要がある。 ・主体的に取り組むことができている生徒が多いが、自分で考え、自分の表現をすることを身に付けていく。
第2学年	・作品制作に対して意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、工程によっては集中力が続かない生徒もいる。 ・下書き段階よりも、本制作に入ると意欲が増す生徒が多い。 ・制作の楽しさを感じさせ、より意欲的に取り組む姿勢を定着させながら、基本的な技能を身に付けていく。	・知識・技能 新たな制作の技能を身に付けているところであり、作品制作を重ねて知識・技能を高める必要がある。 ・思考・判断・表現 少しずつ自分で考え発想、表現することを定着させようとしているところである。 ・主体的に学習に取り組む姿勢 主体的に取り組むことができている生徒が多い。	・作品や授業にさらに集中して取り組み、形と色彩などの基本的な知識・技能を身に付けながら応用していく力を付ける必要がある。 ・主体的に取り組むことができている生徒が多いが、さらに自分で考え発想力を高め、表現方法を創意工夫していく力を身に付ける。
第3学年	・作品制作に対して意欲をもって主体的に取り組んでいる。 ・平面作品と立体作品の得意不得意がある生徒もいるため、関連づけながら技能を伸ばす必要がある。 ・基本的な技能が身に付いてきた生徒もいる。今までの技能を応用させながら、さらに発想力を伸ばし表現力を身に付ける。	・知識・技能 基本的な技能を身に付けている生徒も増えている。作品制作を重ねて知識・技能を高め応用し自己の表現に繋げる必要がある。 ・思考・判断・表現 自分で考え発想、表現することが定着している生徒が多い。表現力を伸ばしていく。 ・主体的に学習に取り組む姿勢 ほとんどの生徒が主体的に取り組むことができている。	・集中力があり意欲的に取り組むことができている。さらに応用力、発想力、表現力を高める必要がある。 ・課題に対して幅広い表現を自ら考え取り組み、表現方法を創意工夫していく力を身に付ける。

様式3

令和3年度　全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	美術

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画	新学習指導要領**対応**
第1学年	・小学校の図工で培った表現力を生かし、中学校ではより技能の力を上げる必要がある。 ・表現活動を活発にするために、基礎的な技能を定着させていく。 ・能力に応じて個別に指導し、個々の段階での向上を目指す。 ・基礎能力の定着と応用力を身につける必要がある。意欲はあるため基本を丁寧に指導していく。	・画材の生かし方、技法を反復説明・実演し、意欲的に取り組ませる。 ・能力に応じた課題を設定し、きめ細やかな机間指導をおこなう。 ・鑑賞の時間を通し、制作を振り返り、他の生徒と刺激を与え合う。 ・振り返りカードを用い、自己の振り返りと課題を考え今後の見通しを立てながら制作に取り組めるようにする。 ・大型モニターと実物投影機を活用し、イメージを膨らませる。	・作業が遅い生徒にも分かりやすく補助的な説明を加えながら制作を進める。 ・描く機会を多くするために、制作が早く終了した生徒に模写や学校行事のポスター等の制作に取り組ませる。 ・夏季休業中に、ポスター制作等の自主的に取り組むことが出来る課題を提示する。	・対象や事象を捉える造形的な視点が理解できるように、表現方法について指導している。 ・形や色彩などの造形要素の働きを捉え、イメージを膨らませるようにする。 ・大型モニターを活用し、作品鑑賞の機会を増やし、多様な視点をもたせる。
第2学年	・基礎的な技能を、より発展させるため、表現技法を習熟度に応じ提示していく。 ・新しい分野の制作に取り組み、表現の幅を広げる。 ・能力に応じて個別に指導し、個々の段階での向上を目指す。	・全体指導だけでなく、個別指導を行う。手本を見せ、理解度を高める工夫をする。 ・スクラッチなどの新たな技法を使った作品に取り組ませ、新しい表現方法を身に付けさせる。 ・振り返りカードを用い、自己の振り返りと課題を考え今後の見通しを立てながら制作に取り組めるようにする。 ・重要な美術作品を多く見せ、意欲関心をもたせる。	・制作進度に応じて隙間時間に模写やスケッチの制作などをさせる。 ・夏季休業中に、ポスター制作等の自主的に取り組むことが出来る課題を提示する。	・対象や事象を捉える造形的な視点が理解できるように、表現方法について指導している。 ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫について考えながら意欲的な制作ができるようにする。 ・作品鑑賞を通して美術作品の見方や感じ方を深められるようにする。
第3学年	・基礎的な技能を身に付けている生徒も増えている。応用する力や自ら工夫する力を付けていく必要がある。 ・技能に個人差が出てきているため、個別指導を行い、個々が最大限の表現をできるようにする。 ・中学校の集大成として今まで以上に作品と向き合い、集中してより良い作品を目指して取り組む姿勢をもたせていく。	・中学校で身に付けた表現技法を生かし、高度なもの、個性が発揮できる題材を設定し、制作意欲、技能の向上を図る。 ・生徒の能力に応じて個別に助言する。 ・振り返りカードを用い、自己の振り返りと課題を考え今後の見通しを立てながら制作に取り組めるようにする。 ・作品を鑑賞する時間を通し、制作を分析し、自分の言葉で作品を人に伝える力を育成する。	・制作進度に応じて隙間時間に模写や小作品の制作をさせる。 ・描く機会を多くするために、制作が早く終了した生徒に学校行事のポスター等の制作に取り組ませる。 ・夏季休業中に、ポスター制作等の自主的に取り組むことが出来る課題を提示する。	・対象や事象を捉える造形的な視点が理解するとともに、表現方法を創意工夫できるよう指導している。 ・形や色彩などの造形要素の働きを捉え、造形的な特徴に着目した制作ができるようにする。 ・大型モニターを活用し、作品鑑賞の機会を増やし、新たな意味や価値を発見させる。

様式2

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	保健体育

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス集計による分析
第1学年	授業に一生懸命取り組んでいる5・4の「あてはまる」と回答した生徒が、96．1%であるのに対して、課題や提出物は期限内に提出している5、4の「あてはまる」回答は82.6%である。自ら積極的に実施をしていく姿勢が必要である。また生徒同士で考えを伝えあう機会が「ある」回答は、59．1%コロナ渦の環境下での難しさは否めない。	①知識・技能 新体力テストの結果を見ても体力の値は低いと感じる。知識は、定期テストの平均が低かった。 ②思考・判断・表現 書くことは出来ても実際に行動を伴い、実施する力が必要。また、考えて工夫する場面が必要と感じる。 ③主体的に学習に取り組む態度 与えられた授業環境では取り組めるが、自分で積極的に実践できる力の欠如が見られる。	授業を休まず積極的に参加する姿勢があるが、自ら考え、実践する力が乏しい。目的を提示し、意欲を持たせる授業の工夫を展開していきたい。また、新体力テストの結果から見ても、体力の向上の必要性を感じる。技能の向上のためには、どのように工夫し、取り組んで行けばよいのかを考えさせる場面を増やしていきたい。自身で振り返られる学習カードなどの工夫もしていく。単元の特性を理解し、楽しく取り組める工夫を考えたい。
第2学年	調査の結果、生徒自身の取り組む姿勢や、教科の内容に対する意見等について、殆どの項目が 90%を超える肯定的回答であった。 唯一、「生徒同士の意見や考えを伝えあう機会がある」という項目が 79.4%という結果であったが、この項目については例年課題となっているため、継続して改善に向けた取組を実施してきた結果、数値が上がってきている。これは、コロナ過でありながら、ICT の有効活用等、工夫を行ってきた成果であると考える。	①知識・技能 主体的活動増加により、個別指導の機会が増え、そのことが知識・技能向上へとつながっている。反面、一斉指導による指導機会の減少により、抑えるべき基礎基本についての全体の習熟度を確認する機会が減少した結果、十分な分析をすることが難しい。 ②思考・判断・表現 新学習指導要領施行に伴い、授業内における生徒の主体的活動、表現活動の機会が増加したため、それによる思考力・判断力・表現力の向上が結果としても現れた。 ③主体的に学習に取り組む態度 上記②同様、主体的活動の増加に伴い、学習意欲が向上し、結果としても現れた。	主体的活動機会の増加が、生徒の学習意欲向上へとつながっている。反面、一斉指導の減少による授業規律の低下、学年全体の習熟度の把握が課題となっていると考える。 今後は、授業展開について工夫改善を行い、より効果的な学力向上へとつながる指導方法を見いだす必要がある。当面は知識・技能の指導と評価の一体化を喫緊の課題とし、新学習指導要領の趣旨に則った指導となるよう改善を図りたい。
第3学年	質問紙調査の結果によると、「授業に一生懸命取り組んでいる」という項目では「当てはまる」と答えた生徒が 97.8%、「分かりやすい」という項目では 98.3%と肯定的評価が高かったのに対し、「教え合う機会がある」という項目では 65.8%とコロナ禍の環境下での授業づくりの難しさが数字にも表れた結果となった。	①知識・技能 体力テストの結果を見ると、2年間の学習を通して特に投動作の値に向上が見られるが、全国平均で比較すると依然として低い傾向にある。定期テストでは、平均点はそれほど低くはなかったものの、学習の二極化が窺える。 ②思考・判断・表現 学習カードなど、考えたことを書く力、表現する力は身についてきていると感じるが、授業内で自ら考え実行する力が必要。 ③主体的に学習に取り組む態度 与えられた役割や課題を全うしようとする姿は見られるが、主体性の向上が必要だと感じる。	体育委員を中心に、生徒主体で規律ある授業を創り上げようとする意欲は感じるものの、昨今の状況下でグループワークなどが十分に行うことができなかったことから主体性や協調性など、今後の授業内で更に育んでいく必要があると感じる。コロナ禍でも、学習カードやタブレットを有効的に活用できる方法を検討し、自ら主体的に取り組むことのできる授業展開を今後も模索していく。

様式3

令和3年度　全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	保健体育

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画	新学習指導要領対応
第1学年	・学習に意欲的に取り組む生徒が多いものの、授業規範が不十分。 ・個々の習熟度の差が大きいため、個に応じた技能課題の設定。 ・保健分野は、身体の発育や発達、生殖に関わる機能の成熟についての性差や個人差への理解および性に関する適切な態度や行動の選択の必要性への理解。	・意欲的に取り組む良さを保ちつつ、それと同時に規範意識が育つよう、両者のバランスを常に意識しながら毎回の授業を展開する。 ・生徒個々の技能や体力の程度に応じた汎用性の高い課題を設定し、課題克服に向けたICT機器の活用および協働学習を効果的に取り入れることにより、自分で調べたり、考えたり、他者と共有したりする問題解決型の学習を展開する。 ・身体の発育や発達、生殖に関わる機能の成熟を身近なこととして捉え、自分自身と照らし合わせて考えることのできるような授業展開や教材の工夫。	・課題を生徒自身が個々に設定できるような学習活動を展開し、その課題を克服するための計画を生徒自ら立てて取り組むなど、個々が習得状況に合わせて工夫できる活動に取り組ませる。 ・学習カードを活用して、自己の計画を立てたり、学習を振り返ったりさせることで、練習内容の更なる充実を図る。	・運動や健康について自他の課題を発見する力、発見した課題を合理的に解決するため思考し判断する力、思考の過程や結論を他者に伝える力を身に付けされるための教材の工夫や効果的な個人内評価およびその習熟度を確認するための定期考査や学習プリントの工夫。
第2学年	・1 学年での学習の積み上げができており、学習に意欲的に取り組む生徒が多い。 ・個々の習熟度に応じた技能課題の設定と、練習方法・計画の提示。 ・自らの生活に深く関わる2年の保健分野の項目において、身近な事例から健康に関する興味関心を高めさせる。	・自己の課題を発見し、解決に向けて仲間と協力しながら課題解決を図ろうとする学習場面の設定。 ・用具、スペースを有効的に活用し、運動の機会を増やすことによって運動量を確保する。 ・調べ学習を充実させ、内容を共有させながら進める。	・一人一人の運動能力に合った段階練習を設定し、各自がそれぞれの技能を高められるような機会を設け、意欲を高めさせる。 ・種目ごとに学習カードを作成し、各自の課題を分析し、到達度を認識させる。また、課題に対する改善策を思考しまとめることで、生徒それぞれが目標達成に向けて努力できる意欲を培う。	・運動や健康について自他の課題を発見する力、発見した課題を合理的に解決するため思考し判断する力、思考の過程や結論を他者に伝える力を身に付けされるための教材の工夫や効果的な個人内評価およびその習熟度を確認するための定期考査や学習プリントの工夫。
第3学年	・体力の保持増進のための運動量と生徒が思考判断する機会の両方をバランスよく確保すること。 ・1、2年の基礎基本の内容を踏まえ、より発展的な技能習得や思考判断をさせる場面の設定。 ・個々の習熟度に応じた技能課題の設定と、練習方法・計画の提示。 ・保健分野は、興味をもたせにくい「環境」に関する内容を、身近な問題を取り上げ、興味、関心を高めさせる。	・他者観察の方法を学ばせ、自他や、見本と自分とを比較することにより自らの課題を明らかにさせる。 ・課題の解決に向けた練習計画を自ら立てさせ、互いに教え合いながら学習を進めさせる。 ・練習場所の工夫や課題別練習内容の提示等を充実させ、習熟度や課題に応じて練習を選択できる場を設定する。 ・保健分野では、近年悪化する環境問題や身近に起きている自然災害に関する項目を取り扱い、安全な生活を学び地域でも活躍できる力を身に付けさせる。	・一人一人の運動能力に合った段階練習を設定し、各自がそれぞれの技能を高められるような機会を設け、意欲を高めさせる。 ・学習カードを活用して、自己の計画を立てたり、学習を振り返ったりさせることで、更なる充実を図る。 ・戦術・作戦を立てさせたり、課題を分析させたりする活動を通して、競技特性の理解を深めるとともに、技能向上だけでないスポーツの多角的な関わり方、楽しみ方を学ばせる。	・運動や健康について自他の課題を発見する力、発見した課題を合理的に解決するため思考し判断する力、思考の過程や結論を他者に伝える力を身に付けされるための教材の工夫や効果的な個人内評価およびその習熟度を確認するための定期考査や学習プリントの工夫。

様式2

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	技術・家庭

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス集計による分析
第1学年	全体的に、技術・家庭科への意欲が高く、授業に前向きに取り組んでいる。しかし、技術分野における工具の使い方については小学校図画工作の既習事項が十分に定着していない部分が見られる。	提出物を出す意識が高く、興味関心は高い。しかし、自らが課題を見つけて取り組むことや知識の定着に関して不十分な部分もある。また、コロナ禍の影響もあり、調理実習ができないことで、学校での実践ができない部分があるため、調理に関する技能の定着や思考・判断・表現の向上が課題となる。	授業への意欲全体的に高く、授業への意識は高い傾向にあるが、知識・技能の定着に不十分な部分もある。また、コロナ禍の影響もあり実習が十分にできない部分もあるため、課題の設定や家庭で実践しやすい内容を精査し、思考・判断・表現の向上を目的とした授業を工夫していく必要がある。
第2学年	授業や実習への取り組みは意欲的であり、全体的に高い意欲で取り組んでいるが個人差も見られる。個別指導の充実を図り知識・技能の定着を図っていく。	思考・判断・表現が不十分であり、自らの生活の中で課題を見付けることがあまりできていない。自らの生活を振り返り、工夫し創造する能力を定着させるような課題や授業の工夫が必要となる。また、工具の使い方等技能の定着は見られるものの、それを知識として定着していない部分が見られる。	主体的に学習に取り組むことは全体的に高い傾向にあるが、思考・判断・表現が十分ではないため、家庭でも実践しやすい課題や授業を工夫していくことが必要である。また、技能の定着は見られるものの、それを知識として定着していない部分が見られるため、技能で身に付けたものを説明する機会を多く設定し、知識・技能の向上を目指す。
第3学年	授業への取り組みや提出物に対する意欲は高い。基礎・基本となる知識は高いが個人差も見られる。また、個別指導等の充実を図るための課題を工夫し全体の学力向上に取り組む。	自らの生活の中で課題を見付けることがあまりできていない。自らの生活を振り返り、工夫し創造する能力を定着させるような課題や授業の工夫が必要となる。	主体的に学習に取り組むことは全体的に高い傾向にあるが、思考・判断・表現が十分ではないため、家庭でも実践しやすい課題や授業を工夫していくことが必要である。また、個人差が大きく見られ、理解度が低い生徒に対するフォローを意識した授業や実習を行うように工夫していく必要がある。

様式3

令和3年度　全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	技術・家庭

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画	新学習指導要領**対応**
第1学年	・学習内容への関心や意欲を高める。 ・小学校図画工作および小学校家庭科からの既習事項の理解度を把握する。 ・既習内容を踏まえ、適切に課題解決学習が行えるようスモールステップによる課題を通して思考力・判断力を高める。	・ICT 機器を用いて、実践的体験的に学習ができるようにする。 ・思考判断しながら課題解決学習が行えるよう、情報収集、話し合い活動の設定および意見共有の時間を設ける。 ・一単位時間内での課題や提出物を設けて、学習状況を把握していく。	・一単位時間内での課題を明確にし、見通しをもち、授業時間内に完成できるように実施する。 ・作品が授業時間内に完成できなかった生徒へは、休み時間、放課後等を用いて補習教室を実施する。	・材料の特徴をいかしたものづくりや調理実習など実践的な活動を家庭や地域などで行えるようにする。 ・情報機器の安全な使い方や情報モラルを身に付ける体験的な取り組みを行う。
第2学年	・学習内容への関心や意欲を高める。 ・既習事項の理解度を把握する。 ・既習内容を踏まえ、適切に課題解決学習が行えるよう思考力・判断力を高める。	・ICT 機器を用いて実践的、体験的な学習課題を設定し、関心意欲を高める。 ・思考判断しながら課題解決学習が行えるよう、情報収集、話し合い活動の設定および意見共有の時間を設ける ・学習内容の定着を図るため、前時の復習的内容を取り入れ既習事項の確認を行っていく。	・一単位時間内での課題を明確にし、見通しをもち、授業時間内に完成できるように実施する。 ・作品が時間内に完成できなかった生徒へは、休み時間、放課後等を用いて補習教室を実施する。	・コンピュータや情報通信ネットワークの積極的な活用を取り入れる。 ・情報モラルを遵守し、情報の収集・整理や実践結果の発表などの活動を取り入れる。
第3学年	・隔週の授業であるため、内容のつながりを意識した授業内容になるよう工夫する。	・ICT 機器を用いて、実践的体験的に学習ができるようにする。 ・授業導入時に、前時とのつながりをもたせるような発問、課題を設定する。 ・授業内容や作業工程を示した資料を配布し、短い時間内での効率的な指導を心掛ける。	・一単位時間内での課題を明確にし、見通しをもち、授業時間内に完成できるように実施する。 ・作品が時間内に完成できなかった生徒へは、休み時間、放課後等を用いて補習教室を実施する。	・一人一人の個性を生かし伸ばすよう、生徒の興味・関心を踏まえた学習課題の設定と、個に応じた指導の充実に努める。

様式2

令和3年度　生徒の学習状況の実態および学力検査等の結果を踏まえた内容別・観点別分析表

教科名	英語

	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス集計による分析
第1学年	①聞くこと・読むこと 聞くことは、単元を通して本文内容を集中して聞く活動に慣れている。ピクチャー・カードを参考に教科書の内容を大まかに推測することができている。読むことは新出単語を帯活動で導入し、十分に聞き慣れ親しんだ英文を読ませるように指導しているため、スムーズに音読練習に取り組めている。 ②話すこと・書くこと 話すことは単語のみでも自分の思いや考えを伝えたいと考えている生徒は多いが、文章レベルで正確に言える生徒は少ない。書くことは正しいスペルや語順で英語を書く量が足りていないことが課題である。	①「知識・技能」 既習の単語は発音できるが、スペルを正確に書くことに課題を感じている。一方、文は慣れ親しんでいるため知識として理解しているものの、文構造及び文法事項として認識し活用する力はまだ備わっていない。 ②「思考・判断・表現」 教科書にある、話す・書く課題は、パターンプラクティスのようなものが多いが、自分のことに当てはめて表現しようとしている。情報を整理しながら考えを形成し、英語で表現しようとしたり、伝え合ったりしようとしているが、ALT との即興にはまだ十分対応できていない。 ③「主体的に学習に取り組む態度」 授業では積極的にペア活動に取り組み、コミュニケーションを取ろうとする姿勢が見受けられる。活動を終えた後に振り返りの文章を書かせると、次回気を付けたいことを考えている生徒もいる。家庭での学習課題に関しては個人差が出始めている。	・これまで通り、聞くこと・読むことに十分に慣れ親しんだ上で、話すこと・書くことの指導に繋げていく。 ・話すことは、間違いを恐れずに話す雰囲気を大切にしつつ、即興的なタスクにも取り組めるように指導していく。 ・書くことは、帯活動で行っている BINGO の活動や(単語・基本文)5点テストのみならず、授業中にもスペルについて取り上げ、正確に書けるように指導していく。
第2学年	①聞くこと・読むこと 聞くことは、単元を通してまとまった内容を聞く活動に慣れている。タブレットを活用し、ピクチャーカードを話の順番に並び替え、教科書の内容を大まかに推測することができている。 読むことは新出単語を導入し、十分に聞き慣れ親しんだ英文を読むように指導している。生徒用デジタル教科書を活用し、何度も粘り強く音読練習に取り組むことができている。 ②話すこと・書くこと 話すことは Retelling の活動を通して文章レベルで発話を続け、かつ正確に言える生徒が増えてきた。 書くことはまとまった英文を書く活動を増やしている。	①「知識・技能」 昨年度と比較して、英単語についてはスペルを正確に書くことに慣れた生徒が多いことが単語テストの結果からわかる。既習の英文法については、生徒一人一人に英文法を解説するレポートを課しているため、知識を再整理することができている。 ②「思考・判断・表現」 定期考査の結果から、時間制限がある中でまとまった英文を複数読んだり、書いたりすることに課題があることがわかる。 ③「主体的に学習に取り組む態度」 授業では積極的にペアやグループ活動に取り組み、協働して課題に取り組み、教え合う姿勢が見受けられる。話す活動を終えた後に互いにフィードバックし合い、振り返りをさせている。 また、定期考査や Retelling テスト後に振り返りシートを書かせると、次回、気を付けるべきことを記述している様子から、学習に対する粘り強さや調整力が身についていることがわかる。	・これまで通り、5ラウンド制の理論に基づき、聞くこと・読むことに十分に慣れ親しんだ上で、話すこと・書くことの指導に繋げていく。 ・生徒用デジタル教科書を活用し、家庭学習で日常的に音読やシャドーイングの活動に取り組ませる。 ・話すことは、間違いを恐れずに話す雰囲気を大切にしつつ、即興的なタスクにも取り組めるように指導していく。 ・書くことは、帯活動で行っている BINGO の活動や、Retelling で発話したことを書く活動を継続する。 また、教科書の Goal で扱われるトピックについて自分の考えや調べたことを英文で書き、まとまった英文を書くことに慣れさせる。

第3学年	①　聞くこと・読むこと 多くの生徒たちが情報を聞き取ることや、読み話の大まかな概要をつかむことはできている。 ②　話すこと・書くこと ペアで話すことは楽しんで取り組むことができている。しかし、スピーチや Retelling には間違えることを恐れる傾向があり、意欲的に取り組めない生徒もいる。書くことに関しては、自分の意見や気持ちを英語で表現することに難しさがあり、抵抗感を持つ生徒も多い。語彙や文法を適切に用いることができない生徒もおり、課題である。	①「知識・技能」 既習である単語や文法事項は意欲的に身につけようとしている。正確に理解し定着している生徒が多いが、正確に覚えていない生徒も多い。 ②「思考・判断・表現」 時間をかけることで、既習である単語や文法の中から適切に場面に合わせた表現を判断することはできる生徒が多いが、即興で話したり書いたりすることには慣れていない生徒が多い。 ③「主体的に学習に取り組む態度」 積極的に授業内の活動や課題には取り組むが、家庭での取り組み方に個人差がある。	・授業内での積極性を家庭学習にもつなげ、既習事項である単語・文法事項の定着を図るよう指導していく。 ・読むことに関して、単語が難しく、文も長くなっているので、多くの文章を読む機会をもたせる必要がある。 ・既習である単語や文法事項から即興で適切な表現を考え、判断させる経験を授業内で設定していく。

様式3

令和3年度　全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	英語

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画	新学習指導要領**対応**
第1学年	・聞くことは初めて聞く英文であっても、ピクチャー・カードを手掛かりに、大まかな内容を推測することができている。 ・読むことは、聞くことに十分に慣れ親しんだ英文を読むことができている。 ・話すことは、単語のみでも自分の思いや考えを伝えたいと考えている生徒は多いが、文章レベルで正確に言える生徒は少ない。ある程度決められた英文を使って ALT と会話を進めることができるが、即興にはまだ十分に対応できていない。 ・書くことは、言える単語のスペルを正確に書くこと及び基本文を正確に書くことに課題をもつ生徒が多い。	・初見の英文を聞いたり読んだりした後も、繰り返しインプットを与え続けることで、生徒が様々な表現を自分でアウトプットできるようにする。 ・話すことは、内容面を充実させることや発話量を増やすことを重点的に指導していく。キーワードをもとに教科書内容を話す Retelling を段階的に取り入れ、文章レベルで言えるように指導する。 ・書くことは、BINGO や5点テストを帯活動で行っているが、十分ではないため、単語や英文を書く作業を授業時間内でも家庭学習でも確保するようにする。また、単語の覚え方など、いわゆる学び方についての指導を継続的に行う。	・補充的な学習 セクションごとの5点テスト、単元ごとの単元テスト及びリスニングテスト、長期休業中のスペリングコンテストなど試験範囲を指定し、できるだけテスト対策に取り組みやすいように工夫をする。その中で基礎学力が定着するような指導を繰り返し行う。 ・発展的な学習 Retelling の活動に段階的に取り組むことで、本文内容を相手に伝えることを意識した発話を、簡単な英文のレベルから複雑な英文のレベルまで使えるようにする。	・聞くことについては、はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の概要を捉えることができるようになった。 ・読むことについては、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章から、必要な情報を読み取り、概要を捉えることができるようになった。 ・話すことについては、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようになった。 ・書くことについては、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようになった。
第2学年	・聞くことは初めて聞く英文であっても、ピクチャーカードを本文内容の順番に並び替える活動を通して、大まかな内容を推測することができている。 ・読むことは、聞くことに十分に慣れ親しんだ英文を読むことができている。一方で、教科書の英文が長くなっているので授業内での工夫が必要である。 ・話すことは、Retelling の活動を通して、文章レベルで発話を続け、かつ正確に言える生徒が増えてきた。 一方で即興的な会話をする機会が少ないことが課題である。 ・書くことは、教科書の Goal のパートを始め、自分の考えなどをまとまった量の英文で書く活動を増やすことが課題である。	・初見の英文を聞いたり読んだりした後も、同じインプットを繰り返し与え続けることで、生徒が様々な表現を真似して自分でアウトプットできるようにする。 ・話すことは、内容面を充実させることや発話量を増やすことを重点的に指導していく。教科書本文内容の Retelling の活動が効果的であるため、継続的に扱う。また、自分のことや身の回りのことについて、即興的に意見を交換し、やりとりができるように指導していく。 ・書くことは、まとまった英文を書いたものを、タブレット活用して他者と共有することで、良い英作文に触れる機会を増やす。そこから相互添削に繋げ、英文を書く力を身に付けさせる。	・補充的な学習 生徒用デジタル教科書を活用して、個別最適化を意識した家庭学習の方法を授業内で提示する。具体的には、英単語のフラッシュカードを用いた発音練習や、イヤホンを活用したシャドーイングの活動を通して音読練習に取り組ませる。 ・発展的な学習 今後も Retelling の活動に継続的に取り組むことで、本文内容を相手に伝えることを意識した発話を即興的にできるようにする。また、授業内で、時間制限のある中でまとまった英文を読んだり書いたりする活動を増やす。	・聞くことは、日常的な話題について、必要な情報を聞き取り、話の概要や要点をとらえることができるようになった。 ・読むことは、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた文章から、必要な情報を読み取り、概要を捉えることができるようになった。 ・話すことは、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようになった。 ・書くことは、日常的な話題や教科書の本文内容について、簡単な語句や文を用いてまとまった量の英文で書くことができるようになった。
第3学年	・多くの生徒たちが聞くこと、読むことに関しては、類推しながらできるようになっている。一部で読むことに対し抵抗感を持っている生徒もいる。 ・話すことに対しては、楽しみ活動が行えている。スローラーナーも生徒同士の教え合いの中で発話できている。 ・書くことに関して、積極的に既習の文法を用い表現する生徒もいる一方、単語や文法を正確に書くことに悩み、消極的な生徒もいる。	・初見の英文を聞く活動、読む活動を増やし、英文に慣れさせ対応できるよう練習する。また、1・2 年時の文章を読み、復習を行う。 ・話すことについては、テーマや用いる文法を決め、練習と発表を行う。また ALT とのやりとりやスピーチ, Retelling などさまざまな形態の話すことを行う。 ・書くことは、話した内容をまとめたり、自分のことや周りのことを表現したりする機会を多く設定していく。	・補充的な学習 夏季休業中の課題(1・2 年の復習)を行い、定着状況をテストにて確認する。また、夏期休業中に基本的な内容を指導する。 ・発展的な学習 初見のリスニングや長文読解を行い、内容を類推しながら理解できるような取り組みを行う。Retelling に取り組み、自分の言葉で絵や写真を表現できるような取り組みを行う。	・聞くことは、必要な情報を聞き取り、話の概要を捉えることや社会的な話題についても要点をとらえることができるようになった。 ・読むことは、簡単な語句や文で書かれた文章や社会的な話題から、必要な情報を読み取り、概要を捉えることができるようになった。 ・話すことは、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたり社会的な話題に関して述べあえることができるようになった。 ・書くことは、社会的な話題について、簡単な語句や文を用いて書くことができるようになった。